

発達・教育支援システム

「発達・教育支援システム」は、発達障害により支援を必要とする子どものための「個別支援計画」を中心とした成長記録などの情報を一元管理し共有化するシステムです。

2016年（平成28年）に改正された「発達障害者支援法」により、行政機関に求められる個々の子どもたちに対する「切れ目のない支援」体制をサポートします。

概要・特長

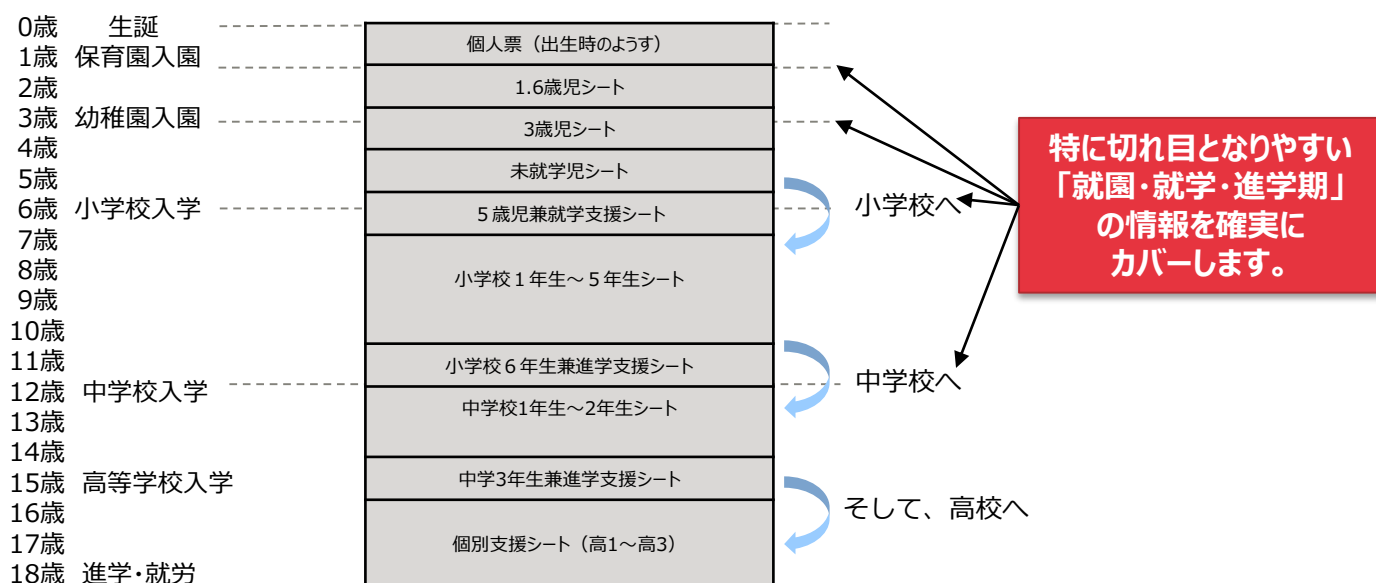
法改正を
電子運用で先取

関係機関との
情報連携

安心安全で
セキュアな環境

- 幼児期から保育園、幼稚園、小中学校での様子や支援を受けた内容を1年ごとにシートを作成・管理します。
- 子どもたちの情報は、システムを利用する関係機関で共有することが可能です。
- 既存の校務事務システムからの情報を連携することができます。

「個別支援計画」による子どもの成長の記録（イメージ）



機能概要

情報管理 機能

- ✓ 利用者の台帳機能
(氏名、連絡先、利用状況等)

福祉と教育の情報を
一元的に管理

個別帳票支援 機能

- ✓ シートの電子運用
- ✓ 指定の様式で構成

スピーディな伝達
きめ細かな情報連携

日常記録管理 機能

- ✓ 相談・指導、
支援方針等の記録

専門スタッフによる
情報共有

画面イメージ

利用者情報登録画面

シート入力画面

日常記録入力画面

システムイメージ



※記載の会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。
※記載された情報は、予告なく変更することがあります。
※記載の内容は、2017年5月現在のものです。

お問い合わせ先

株式会社ワイ・シー・シー 営業統括部

〒400-0035 山梨県甲府市飯田三丁目1-2

E-mail: yccegy@ycc.co.jp

ホームページ <http://www.ycc.co.jp/index.html>

東京都 日野市様【発達・教育支援システム】

福祉と教育の一体化によって切れ目のない支援を実現

2005年（平成17年）に「発達障害者支援法」が施行され、全国の自治体が発達障害者の支援を充実させていく中、東京都日野市様は、「福祉」と「教育」が一体となった支援に取り組まれています。2016年（平成28年）4月、発達に遅れや偏りのある子どもを支援する関係機関が、これまで蓄積してきた子どもの成長記録を、安全かつ合理的な方法で共有・保管する【発達・教育支援システム】を構築されました。

システム構築の背景

発達に支援を要する子どもを取り巻く環境の変化と課題

2005年（平成17年）4月、発達障害者を総合的に支援することを目的とした「発達障害者支援法」が施行され、2007年（平成19年）には、特別支援教育が学校教育法に位置付けられ、発達障害の児童・生徒に対して、全ての学校において適切な教育を行うことが規定されました。

そのような時代的背景の中、日野市様は、2011年（平成23年）10月に「切れ目のない支援検討委員会」を設置され、発達に支援を要する日野市の子どもたちの状況を把握し、どのような対応が必要なのかを検討されました。

支援を要する子どもたちの社会的状況を見ると、就学前の児童デイサービス（発達支援事業）の利用者数が増加していること、就学、進学時に提出するシートの利用ニーズが増えていること、また、特別支援学級の児童・生徒数の推移を見ても、「情緒」や「言語」の学級の人数が増加していることが分かりました。

このような、幼児期から学齢期において、発達支援の必要の高まりとともに、できるだけ早期からの適切な支援やライフステージを通じた切れ目のない一貫した支援の必要性があることが浮かび上がり、また、子どもの情報共有と管理及び連携体制の必要性などのいくつかの課題が出されました。

- ・子どもの情報が関係機関や行政部署が別々に把握し、共有されていない。
- ・子どものライフステージに合わせて、必要な情報が関係機関に移行されない。
- ・支援を必要とする子どもの情報は、ライフステージごとに積み重ねていくため、一元管理する仕組みが必要である。

システム構築の経緯

課題解決のための情報の共有と連携に向けた取り組み

日野市様は、見出された課題を克服し、子どものライフステージを通じた切れ目のない支援のため、有識者や関係機関の代表者から構成される「切れ目のない支援検討委員会」より「かしのきシートの導入」と「（仮称）発達支援システム（現：発達・教育支援システム）の導入」の提言を受けました。

「かしのきシート」は、関係機関と行政部署が別々に把握していた子どもの情報を、子どもの出生時からの記録をはじめ、保育園、幼稚園、小・中学校における成長の様子や支援を受けた内容を1年毎にシート化し、これを積み重ねて、就学・進学・就労職先に引き継いでいくものです。これにより、0歳から18歳まで一貫した支援方針で子どもをサポートすることができ、関係機関の連携は深まり、子どもや保護者にとってより良い支援体制を組むことができるようになりました。

「かしのきシート」は、紙ベースで取り組まれていましたが、2016年（平成28年）に、「かしのきシート」を安全かつ合理的な方法で共有・保管する仕組みとして電子化し「発達・教育支援システム」として構築し稼働されました。

「発達・教育支援システム」は、市内の幼稚園と保育園、小・中学校などの子育て支援機関およそ80拠点とネットワークでつなげ情報を的確に引き継いでいます。

さらに、日野市様では現在、特に情報の切れ目となりやすい中学校から高等学校等への引き継ぎに力を入れており、文部科学省の研究事業を活用しながら、当システムの有効的活用方法を検証されているところです。

システム構築の効果

福祉と教育の一体化によって切れ目のない支援を実現

「発達・教育支援システム」を構築・稼働したことにより、日野市様は福祉と教育の垣根をなくし、切れ目のない支援体制の構築を実現されました。これまでの紙ベースでは紛失等により情報が喪失される可能性が少なからずありましたが、情報を電子化したことにより、日野市様が安全かつ確実に保存管理されています。

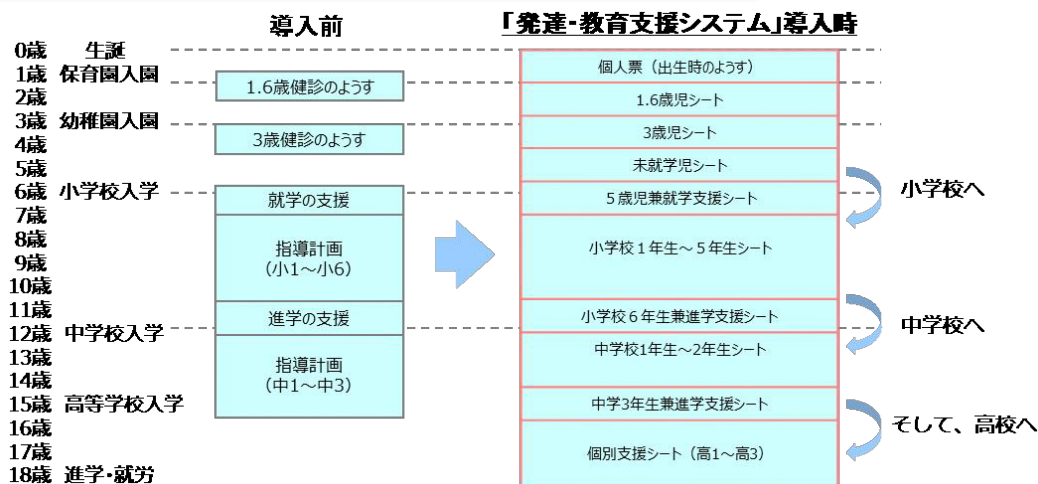
さらに子どもの特性や支援内容がリアルタイムに更新されることで、所属先の関係機関は成長する過程への気づきが増え、日々の指導や教育に活用することができるという最大のメリットがあります。

「発達・教育支援システム」は、現在、幼児期の子育て支援機関として公立の幼稚園・保育園と接続されていますが、2017（平成29）年度には、民間保育園と幼稚園との接続を予定しており、市内未就学児が在園する各施設の日常における幼児教育や保育をサポートしていかれます。

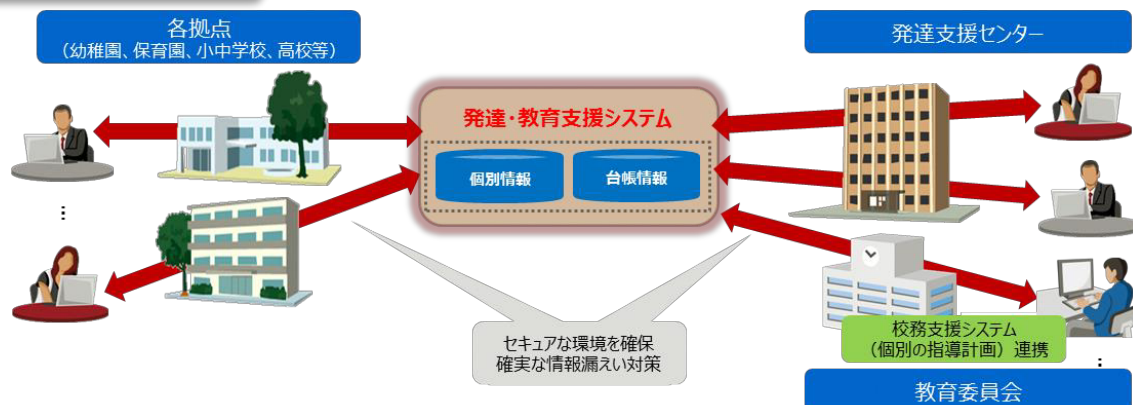


写真：日野市発達・教育支援センター「エール」

「個別支援計画」による子どもの成長の記録（イメージ）



システムイメージ



お客さま概要

日野市発達・教育支援センター「エール」

日野市健康福祉部発達支援課

日野市教育委員会教育部教育支援課

事業内容：

- ・相談事業（心理相談、医療相談、就学・進学・入級・転学相談、子どものこころ電話相談等）
- ・専門指導事業
- ・通園事業
- ・保護者交流
- ・特別支援教育
- ・巡回相談
- ・子どもの一時預かり

所在地：東京都日野市旭が丘2の4 2の8

ホームページ：<http://www.city.hino.lg.jp/>（日野市様HP）

※記載の会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

※記載された情報は、予告なく変更することがあります。

※記載の内容は、2017年5月現在のものです。

お問い合わせ先

株式会社ワイ・シー・シー 営業統括部

〒400-0035 山梨県甲府市飯田三丁目1-2

E-mail：yccegy@ycc.co.jp

ホームページ <http://www.ycc.co.jp/index.html>